伊藤若冲生誕三〇〇年記念

彩美版® ボストン美術館特別許可

日出鳳凰図

ひのでほうおうず

伊藤若冲 筆

美術趣味 BIJUTSU SHUMI

日出鳳凰図

江戸画壇の奇才、若冲が描く比類なき吉祥画の逸品

アメリカ・ボストン美術館所蔵品

「日出鳳凰図」によせて

河野　元昭

伊藤若冲（一七一六～一八〇〇）は、京都錦小路の青物問屋に生まれた。若冲と親しかった相国寺の大典和尚によると、かれは初め狩野派を学んだが、その伝統に縛られることを嫌って、中国宋元画の模写に精力を傾けた。しかし、これも描かれた対象をもう一度なぞっているにすぎない。結局は、実際の「物」の描写こそもっとも重要であるということを悟るに至った。そこで、若冲は鶏数十羽を自分で飼い、その写生から始めたという。

しかし、若冲の作品は、けっして単なる写生画でなかった。実在の花や鳥をじっと観察する若冲の視覚には、外面の形態を越えて、内面の本質がとらえられていたのである。それが若冲の個性的な美意識を濾過するうちに、他の誰も真似のできない力動感あふれるフォルムと、刺激的な光を放つ色彩へと生まれ変る。その結果、現実の花鳥から出発したものでありながら、きわめて幻想的な画面空間が、我々のまえに現出することになるのである。

このような若冲のすぐれた作品の一つに、ボストン美術館に所蔵される「日出鳳凰図」がある。古来中国や日本で、麟・龍・亀とともに四瑞として尊ばれてきた想像上の瑞鳥である鳳凰に朝日が添られ、いかにもめでたい吉祥の図柄となっている。

しかし、右に指摘したような若冲の特徴は、まだあまりはっきりとは現われてきていない。描写はおとなしく、全体の印象も静謐である。それだけに、代表作として有名な「動植綵絵」（宮内庁蔵）などには求めがたいナイーブな美しさがある。このような点から、この作品は現存する若冲画のなかで、もっとも早く描かれた「若がき」であり、おそらくは三十代半ばの制作と推定されている。だが、心を落ち着けてよく見るならば、やがて花開く若冲の美的特質が、すでに芽吹いていることに気づかされるのである。

（美術史家、東京大学名誉教授）

この日本画掛軸の生地は、当社で特織謹製しております。万一品切れになった場合同一品質・似ている模様の生地を使用することがございますのでご了承ください。

コードK125

伊藤若冲略歴

一七一六年（享保元年）　京都の青物問屋「桝源」主人三代伊藤源左衛門の長男として生まれる。幼名不詳。
一七三八年（元文三年）　父源左衛門、四二才で没。若冲四代目源左衛門となる。
一七五五年（宝暦五年）　次弟白歳に家督を譲り、画業に専念する。
一七六四年（明和元年）　金刀比羅宮奥書院に赴き障壁画制作。
一七六五年（明和二年）　釈迦・普賢・文殊像三幅対、および花鳥図「動植綵絵」二十四幅を相国寺に寄進。
一七七五年（安永四年）　この年板行の「平安人物志」に、応挙、若冲、大雅、蕪村の順で載る。
一七九〇年（寛政二年）　大阪西福寺および伏見海宝寺にて障壁画制作。
一七九九年（寛政一一年）　石峯寺本堂天井画花卉図制作。
一八〇〇年（寛政一二年）　九月八日没。十月二十七日相国寺で法要行われる。
一八八九年（明治二二年）　相国寺、「動植綵絵」三十幅を宮中へ献納、金一万円を下賜される。
二〇一六年（平成二八年）　東京都美術館で「生誕三〇〇年記念　若冲展」を開催。

■ ご希望により額装のご注文も承ります。

コードS081

仕様・体裁

- 技法　彩美版®
- 画面寸法　九四×三三センチ
- 用紙　特製絹本（代用絹本）
- 証明　所蔵先承認印付き証紙を貼付
- 解説　河野元昭（美術史家）
- 原画所蔵　ボストン美術館

◆掛軸

- 表装寸法　一八三×五二・五センチ
- 表装形式　本表装
- 表装材料　天地＝万象裂　中廻＝貴船緞子　風帯・一文字＝金襴　軸先＝黒檀　桐箱・タトウ付

◆額装

- 額装寸法　一一九・五×四八・七センチ
- 額縁　高級木製和額　アクリル付
- 重量　三・二kg

本体価格　一一〇、〇〇〇円
（消費税等は別途申し受けます）

制作／共同印刷株式会社

寸法・重量等は、天然材料を使用し一点ずつ手作りのため、表記と異なる場合があります。本カタログ掲載写真等の無断転写、複製、転載およびインターネットでの無断使用を禁じます。

美術趣味 【美術ともっと楽しむためのウェブマガジン】 http://bijutsu-shumi.com